

令和4年度 先進的介護「北九州モデル」推進に関する評価委員会
会 議 録

- 1 開催日時 令和5年2月22日（水）16時～17時
- 2 開催場所 北九州市役所 15階 15C会議室（小倉北区城内1-1）
- 3 出席者（五十音順）
木戸委員 工藤委員 田代委員 橋元委員 矢野委員
角屋委員（欠席：黒木委員）

4 会議経過

事務局から令和4年度実施事業について進捗及び自己評価について報告。
報告内容について意見交換を実施した。

<介護記録データの分析による予測型介護に関する研究について>

【委員】 看取りに関しては、業界でも取り組まなければならないが、ベテラン職員でも難しい。とは言え、介護保険事業が安定するためにも進めなければならない。今年度の調査結果は承知した。来期以降も進めていくべき課題である。

【委員】 看取りに関して介護職の方に判断させるということは酷ではないか。また、機械でデータ、バイタルがそろったからといって、職員が死期を感覚で語りだすことは倫理上の問題にもつながりかねないのではないか。

【委員】 高齢者は多くの疾患を持っており、最後の時期がいつなのかというのは判断しかねる。職員は医師に報告しながら、今後どのようなケアや看護をするか、日々協議を行っている。

【委員】 経験や勘として暗黙知でやっていたことを看護記録等から形式知化していくことは非常に重要である。また、形式知化した後についても、職員の中での共有やご家族とのコミュニケーションするのとか等の仕組みづくりも必要になってくる。この分析研究はもう少し範囲を広げていくことを考えて事業を進めていただきたい。特養でできれば、やがて在宅にも使えるという可能性が出てくる。

<国家戦略特区における規制の特例措置の効果検証について>

【委員】 特例措置を使った長い距離を歩けば、2つのユニットを使った効果というのは、正直どうなのか。高齢者は色んなエピソードで容易に生活機能や体力が落ちてしまう。どれだけ今の機能を維持していくかが非常に大事な視点である。

【委員】 この実証の歩行訓練は、単にその機械を使ってずっと歩いているのか。座位から立位にいて、その立位を維持していくなどもやっていたのか。また、訓練が終わった後も、その能力を維持していけるのかどうか。

【事務局】 1機種については、座位から立ち上がりまで様々な訓練が可能であり、実際使用した方からは「非常に良い」という意見をいただいた。しかし、機器の値段が高く、導入に向けた問題も出ている。

【委員】 歩くという動作はいろんな筋肉が関わっていて、その使い方だとか、色々なやり方があるが、それを機械だけで可能にしていけるのか。

【委員】 体を動かすことによって、様々な運動機能は改善される。極論、何をしても効果がある。ただ、歩くというのは3次元の動きが入る。それと「動」が入ってくるため、色々な視界からの情報が入ってくるなど、副次的な効果も凄く大きい。病院では「足をもっと上げて」など歩き方まで指導するが、施設ではそこまでせず、移動するという目的で指導されるといいのではと思う。

<その他事業、自己評価について>

【委員】 介護ロボット導入の仕組みづくりについて、もう検討終了ということだが、これは介護ロボットを導入しようとする組織が、(剰余金などの余裕資金で投資ができる)ストックベースで経営をしているのか、(年々の事業収支の枠内で投資をする)フローベースで経営しているのかといった、各施設の財務構造からも

影響を受けるだろう。

導入する施設がどういう財務体質なのかということの方が大きい。検討が終わるのは結構だが、やめる前に入れるところの社会福祉法人等の財務情報を見ながらそういう分析や結論に持っていくと、よいのではないか。

【委員】 人材育成も非常に重要なので、進捗状況が順調でよかった。

【委員】 その他事業についても、市が作成した各事業の自己評価について、概ね妥当ということで委員会を終了させていただく。